

令和 7 年度 熊本市救急災害医療協議会

1 救急医療について

(1) 令和 6 年度救急診療実績

- ① 初期救急休日・夜間診療実績 (1)
- ② 初期救急休日・夜間診療実績（年未年始） (2)
- ③ 令和 6 年度救急患者数
（公的 7 病院及び休日当番の救急患者数） (3)
- ④ 過去 10 年の救急患者数の推移（患者自ら来院） (4)
- ⑤ 過去 10 年の救急患者数の推移（救急車で来院） (5)
- ⑥ 救急出場件数の状況 (6)
- ⑦ 救急搬送件数（医療機関別） (7)
- ⑧ 令和 6 年度救命救急センターにおける救急患者の状況 … (8)
- ⑨ 「熊本型」ヘリ救急搬送体制によるヘリ運航
状況について（参考） (9)
- ⑩ 「熊本型」ヘリ救急搬送体制によるヘリ未出動
件数について（参考） (10)

(2) 令和 7 年度救急医療体制

- ① 令和 7 年度救急医療体制 (11)
- ② 夜間の医療体制および相談体制の状況 (13)

2 災害医療について

- (1) 熊本市の災害医療体制について (15)
- (2) 熊本市地域災害コーディネーターについて (17)
- (3) 熊本市災害医療サポートチームについて (17)
- (4) 広域災害救急医療システム（EMIS）について (18)
- (5) 熊本市災害医療訓練の実施について (19)
- (6) 災害医療にかかる市民への啓発について (20)

1 救急医療について

(1) 令和6年度 救急診療実績

① 初期救急休日・夜間診療実績 (熊本市委託分)

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	対前年比
患者総数		35,314	41,004	49,964	64,943	58,617	90.3%
休日夜間急患センター (熊本地域医療センター)	患者総数	9,458	11,217	13,129	19,495	19,932	102.2%
	小児科	5,102	6,811	8,117	11,322	11,366	100.4%
	内科	3,329	3,264	3,549	6,835	7,206	105.4%
	外科	1,027	1,142	1,463	1,338	1,360	101.6%
	診療日数	334	360	362	366	365	99.7%
	1日平均	28	31	36	53	55	102.5%
	市外患者数(再掲)	916	1,430	2,721	4,145	4,308	103.9%
	県外	82	179	408	683	731	107.0%
	二次病院転送件数	756	759	747	733	910	124.1%
休日準夜間診療所 (熊本赤十字病院)	患者総数	2,385	2,803	3,233	3,607	3,035	84.1%
	小児科	1,011	1,328	1,705	1,968	1,515	77.0%
	内科	946	989	1,020	1,146	1,014	88.5%
	外科	48	45	48	46	44	95.7%
	整形外科	380	441	460	447	462	103.4%
	診療日数	66	66	66	61	66	108.2%
	1日平均	36	42	49	59	46	77.8%
	市外患者数(再掲)	956	1,123	1,363	1,635	1,281	78.3%
	県外	20	44	79	110	66	60.0%
二次病院転送件数	69	38	50	61	76	124.6%	
休日当番医	患者総数	23,390	26,882	33,487	41,710	35,470	85.0%
(熊本市医師会) 休日(9:00~17:00)	患者総数	21,483	25,476	31,818	39,782	33,830	85.0%
	延休日当番医数	746	748	739	766	750	97.9%
	1医療機関平均	29	34	43	52	45	86.9%
	二次病院転送件数	58	55	51	44	43	97.7%
(鹿本医師会) ※1 休日(9:00~17:00)	患者総数	1,484	1,406	1,669	1,928	1,640	85.1%
	延休日当番医数	79	81	77	77	69	89.6%
	1医療機関平均	19	17	22	25	24	94.9%
(下益城郡医師会) ※1 休日(9:00~17:00)	患者総数	423	0	0	0	0	—
	延休日当番医数	23	—	—	—	—	—
	1医療機関平均	18	—	—	—	—	—
休日歯科当番医 休日夜間(18:00~24:00)	患者総数	81	102	115	131	180	137.4%
	延休日当番医数	66	66	66	67	67	100.0%
夜間調剤(市薬剤師会) 毎夜間(18:00~24:00) 休日(0:00~24:00)	調剤処方箋枚数	6,258	6,811	7,567	11,786	12,599	106.9%
	実施日数	334	360	360	361	359	99.4%

※1 数値は年間総数(年末年始を含む)

なお、城南町・富合町の医療機関は、令和2年8月から熊本市域に統合。

② 初期救急休日・夜間診療実績（年未年始、熊本市委託分）

区 分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度		
	合計	合計	合計	急患	休日	計	急患	休日	計
内科	1,160	1,188	2,343	972	1,843	2,815	1,285	4,241	5,526
小児科	1,074	1,185	1,444	628	1,155	1,783	944	1,470	2,414
外科	104	162	160	96	54	150	84	73	157
整形外科	322	455	471	-	285	285	-	507	507
脳外科	12	35	73	-	66	66	-	83	83
産婦人科	176	109	116	-	103	103	-	99	99
耳鼻咽喉科	436	536	840	-	1,078	1,078	-	1,355	1,355
眼科	281	295	248	-	374	374	-	349	349
その他	144	142	194	-	163	163	-	209	209
合計	3,709	4,107	5,889	1,696	5,121	6,817	2,313	8,386	10,699
歯科	293	310	290	408			481		
調剤処方箋	549	546	768	1,522			2,317		

【診療日毎内訳（令和6年度）】

区 分	12月30日		12月31日		1月1日		1月2日		1月3・4日	
	急患	休日	急患	休日	急患	休日	急患	休日	急患	休日
内科	251	1538	306	715	356	433	292	313	80	1242
小児科	162	326	217	283	215	223	202	360	148	278
外科	14	48	18	0	15	9	19	16	18	0
整形外科	0	312	0	47	0	99	0	49	0	0
脳外科	0	36	0	18	0	29	0	0	0	0
産婦人科	0	20	0	24	0	20	0	24	0	11
耳鼻咽喉科	0	365	0	398	0	258	0	209	0	125
眼科	0	151	0	91	0	52	0	55	0	0
その他	0	61	0	65	0	3	0	49	0	31
合計	427	2,857	541	1,641	586	1,126	513	1,075	246	1,687
歯科	116		133		77		82		73	
調剤処方箋	338		515		490		516		458	

○急 患： 休日夜間急患センター（熊本地域医療センター）

内科、小児科、外科

○休 日： 休日当番医

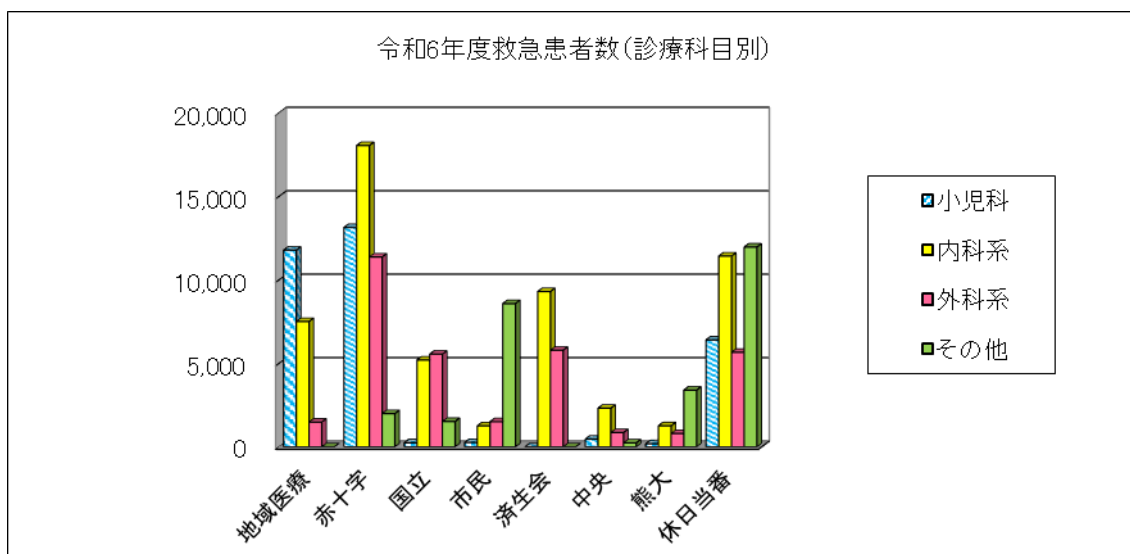
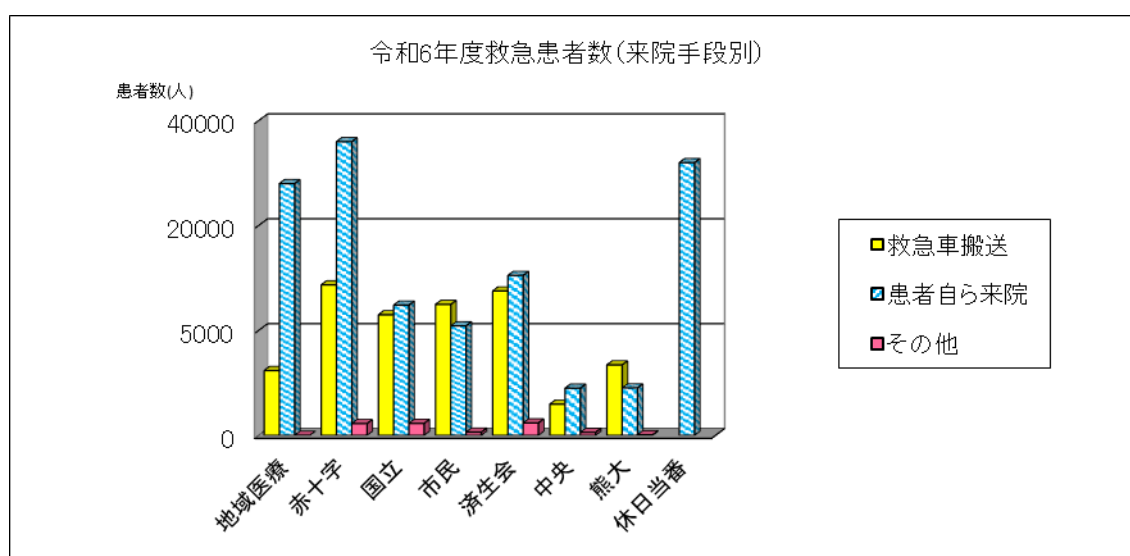
1日当り 内科系5、外科系3、産婦人科1、耳鼻咽喉科1、眼科1、泌尿器科1
小児科3（昼間のみ）

○歯科当番医 1日当り 歯科2

○救急調剤 市薬剤師会 くまもと中央薬局

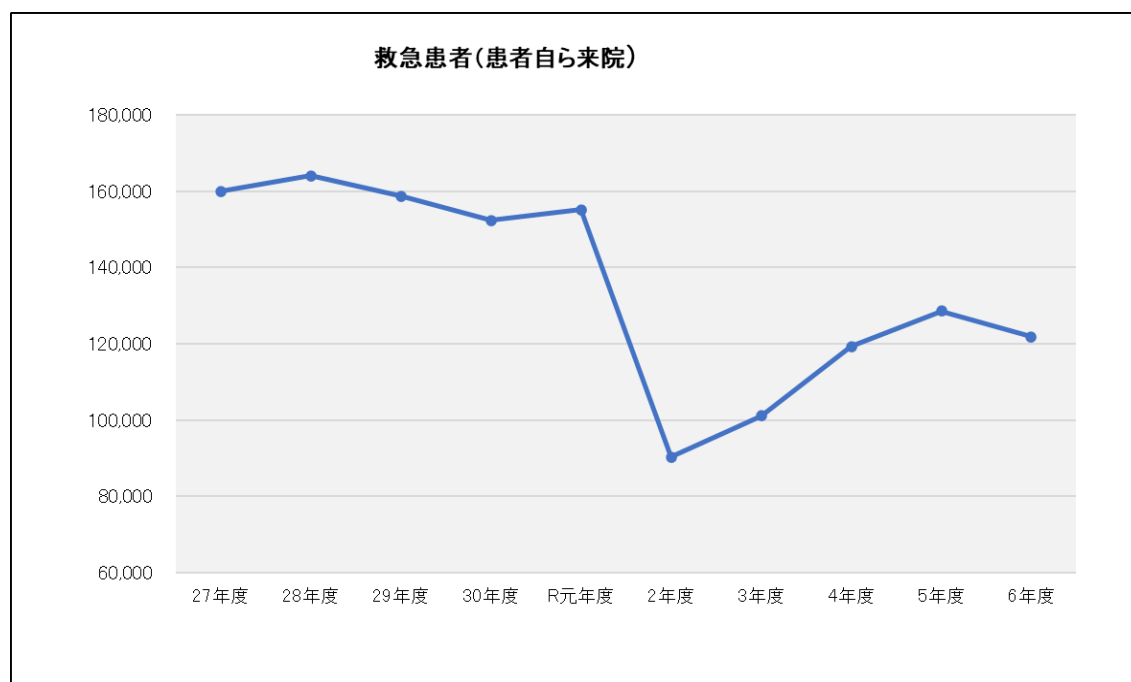
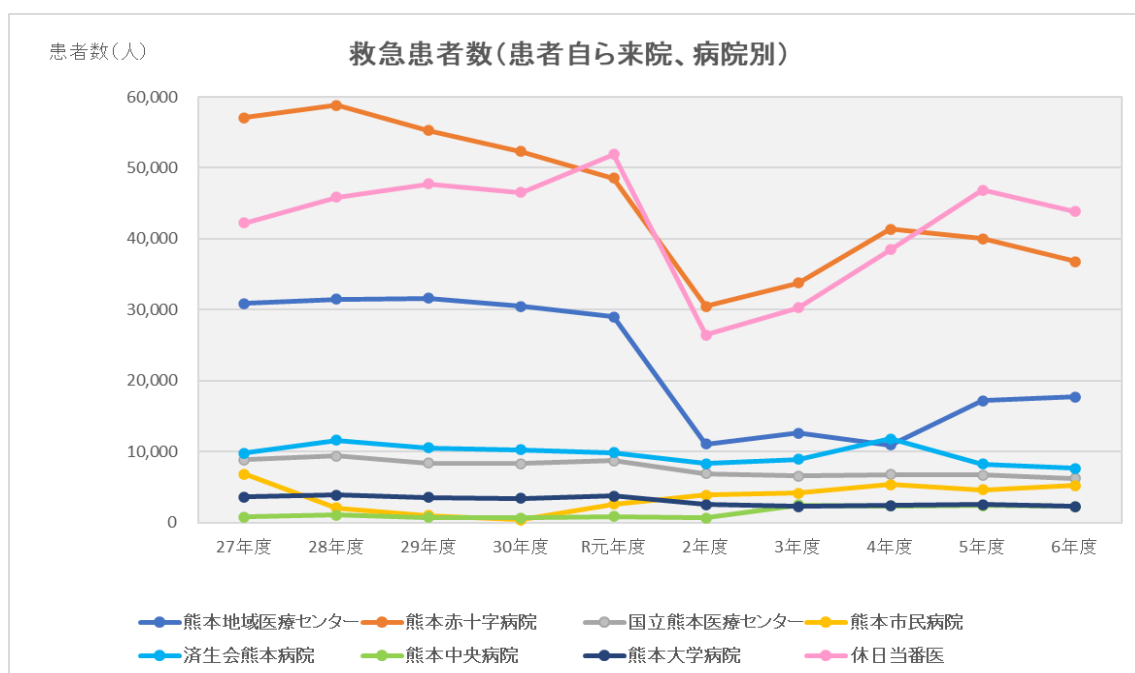
③ 令和6年度救急患者数（公的7病院及び休日当番の救急患者数）

	地域医療	赤十字	国立	市民	済生会	中央	熊大	休日当番	総数	総数	歯科
	熊本地域 医療センター	熊本赤十字 病院	国立熊本 医療センター	熊本市民 病院	済生会 熊本病院	熊本中央 病院	熊本大学 病院	休日当番	総数 (R6年度)	総数 (R5年度)	歯科
総患者数	20,778	44,553	12,528	11,613	15,093	3,876	5,650	35,470	149,561	165,186	661
小児科	11,784	13,139	246	263	0	464	189	6,407	32,492	38,179	
内科系	7,510	18,051	5,203	1,262	9,303	2,316	1,264	11,431	56,340	62,301	
外科系	1,484	11,371	5,556	1,508	5,790	857	798	5,661	33,025	32,571	
その他	0	1,992	1,523	8,580	0	239	3,399	11,971	27,704	32,135	661
救急車搬送	3,088	7,175	5,749	6,241	6,881	1,484	3,359		33,977	34,566	
患者自到来院	17,690	36,814	6,207	5,219	7,621	2,249	2,262	35,470	113,532	128,555	661
その他	0	564	572	153	591	143	29		2,052	2,065	



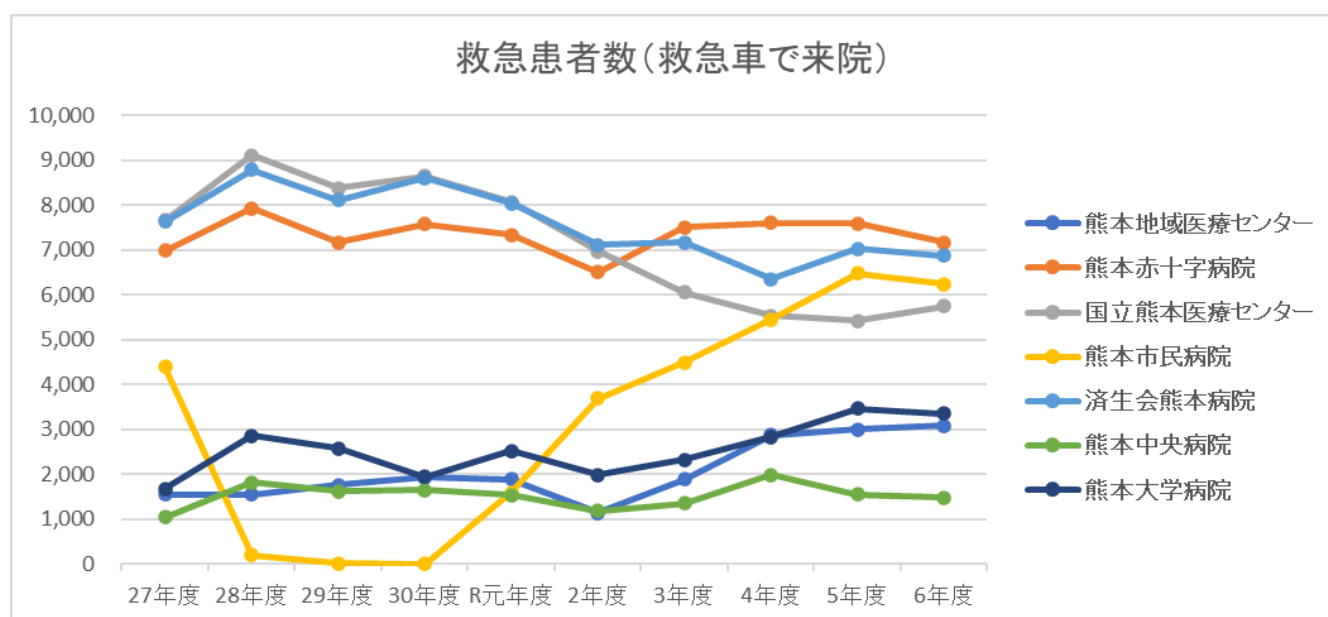
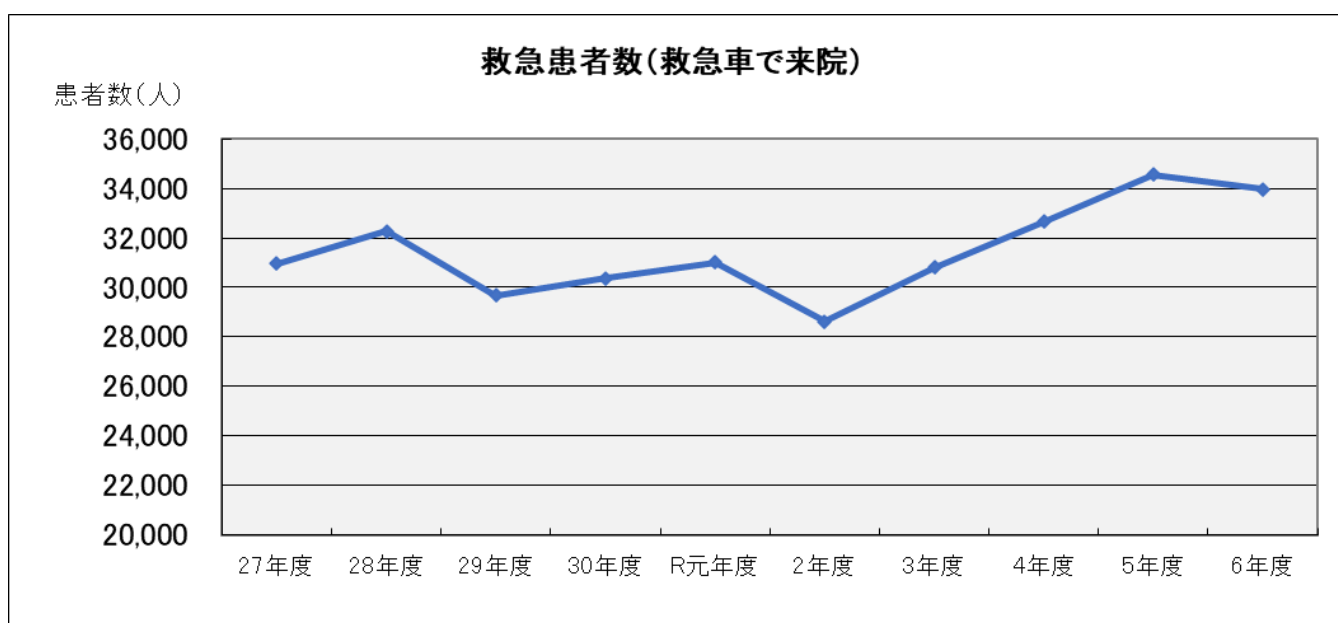
④ 過去10年の救急患者数の推移（患者自到来院）

	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
患者総数	160,036	164,114	158,733	152,356	155,156	90,273	101,089	119,349	128,555	121,918
熊本地域医療センター	30,906	31,471	31,615	30,466	28,990	11,091	12,617	10,935	17,168	17,690
熊本赤十字病院	57,058	58,803	55,292	52,307	48,521	30,452	33,794	41,337	40,041	36,814
国立熊本医療センター	8,835	9,393	8,379	8,344	8,690	6,876	6,551	6,753	6,733	6,207
熊本市民病院	6,823	2,032	961	373	2,584	3,867	4,160	5,361	4,602	5,219
済生会熊本病院	9,793	11,604	10,543	10,238	9,851	8,299	8,942	11,797	8,256	7,621
熊本中央病院	758	1,073	695	685	886	674	2,456	2,301	2,375	2,249
熊本大学病院	3,617	3,874	3,539	3,401	3,756	2,566	2,269	2,400	2,549	2,262
休日当番医	42,246	45,864	47,709	46,542	51,878	26,448	30,300	38,465	46,831	43,856



⑤ 過去 10 年の救急患者数の推移（救急車で来院）

	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
患者総数	30,968	32,276	29,666	30,380	31,014	28,616	30,817	32,651	34,566	33,977
熊本地域医療センター	1,551	1,560	1,772	1,930	1,890	1,152	1,887	2,881	3,000	3,088
熊本赤十字病院	6,992	7,924	7,173	7,571	7,340	6,505	7,504	7,606	7,597	7,175
国立熊本医療センター	7,666	9,110	8,387	8,653	8,067	6,975	6,064	5,534	5,423	5,749
熊本市民病院	4,391	208	14	6	1,600	3,695	4,495	5,451	6,486	6,241
済生会熊本病院	7,630	8,794	8,117	8,611	8,048	7,117	7,173	6,349	7,031	6,881
熊本中央病院	1,052	1,817	1,627	1,655	1,539	1,183	1,359	1,991	1,555	1,484
熊本大学病院	1,686	2,863	2,576	1,954	2,530	1,989	2,335	2,839	3,474	3,359



⑥ 救急出場件数の状況（市消防局のデータから）

令和 6 年の救急出場件数は 46,580 件であった。

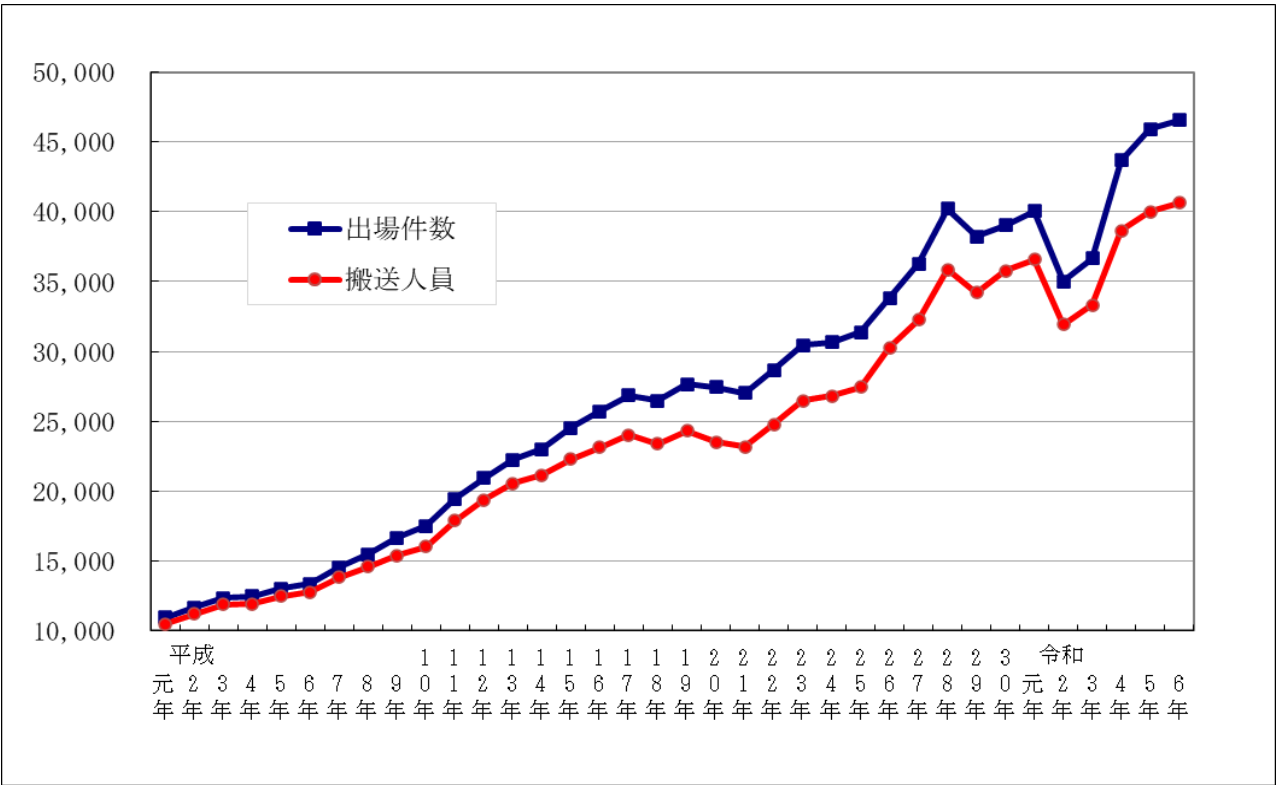
出場件数の頻度は、1 日平均 127.3 件、約 11 分 19 秒に 1 回の出場となる。

搬送人員は 40,652 人で、管内住民の 18.9 人に 1 人が救急車で搬送されたことになる。

事故種別救急活動件数（過去 5 年の推移）

年別	件数 人員	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
2年	出場件数	35,016	110	7	15	2,311	294	243	5,844	136	354	22,164	3,538
2020年	搬送人員	31,914	17	7	9	2,158	292	245	5,473	113	280	20,536	2,784
3年	出場件数	36,666	141	2	7	2,304	259	251	5,625	101	355	23,821	3,800
2021年	搬送人員	33,341	32	1	5	2,174	256	246	5,280	81	276	21,913	3,077
4年	出場件数	43,694	143	4	7	2,413	315	279	6,689	145	390	29,212	4,097
2022年	搬送人員	38,655	39	4	2	2,165	304	273	6,122	119	273	25,944	3,410
5年	出場件数	45,926	132	5	10	2,521	290	347	7,590	135	415	30,425	4,056
2023年	搬送人員	40,032	26	1	5	2,178	280	334	6,879	107	299	26,772	3,151
6年	出場件数	46,580	117	0	11	2,523	321	359	7,704	137	464	31,103	3,841
2024年	搬送人員	40,652	21	0	2	2,168	314	344	7,042	95	329	27,278	3,059

救急出動件数・搬送人員推移



⑦ 救急搬送件数(医療機関別) (市消防局のデータから)

医療機関別救急搬送件数

	救急告示 (公的)(※1)	救急告示 (民間)(※2)	その他の 医療機関(※3)	合計
令和2年	19,932	9,586	2,396	31,914
令和3年	19,543	10,926	2,870	33,339
令和4年	20,481	14,171	3,867	38,519
令和5年	21,147	13,750	5,025	39,922
令和6年	21,262	14,499	4,767	40,527

※搬送人員のうち、ドクターヘリ、防災ヘリへ搬送したものは集計に含めない

医療機関別救急搬送割合(%)

	救急告示 (公的)(※1)	救急告示 (民間)(※2)	その他の 医療機関(※3)
令和2年	62.5	30.0	7.5
令和3年	58.6	32.8	8.6
令和4年	53.2	36.8	10.0
令和5年	53.0	34.4	12.6
令和6年	52.5	35.8	11.7

※ 1 救急告示(公的):

熊本大学病院、熊本医療センター、熊本赤十字病院、
済生会熊本病院、熊本市市民病院、熊本市立植木病院 等

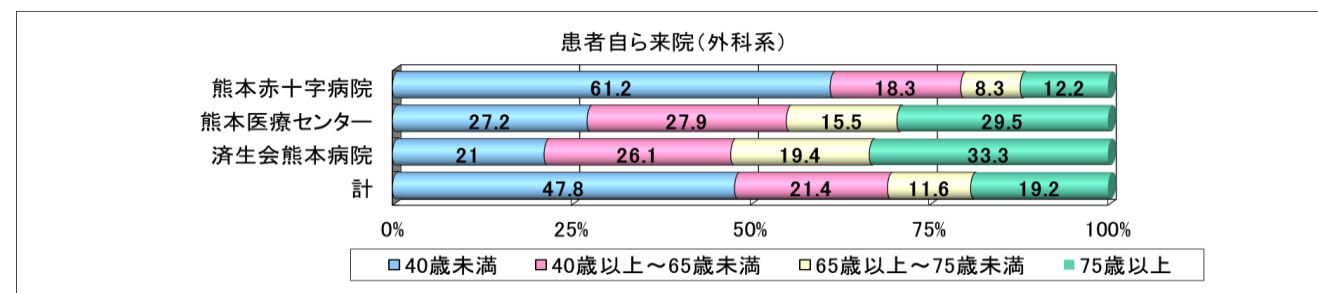
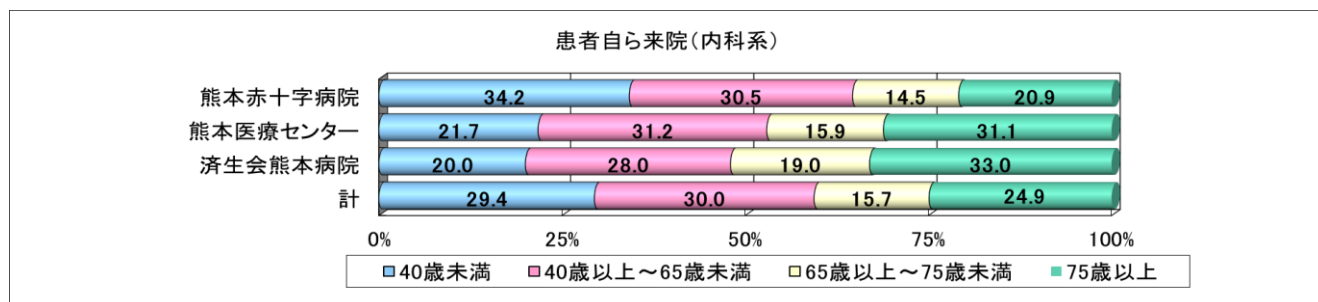
※ 2 救急告示(民間): 公的以外の救急告示医療機関

※ 3 その他の医療機関: 救急告示以外の搬送受入医療機関

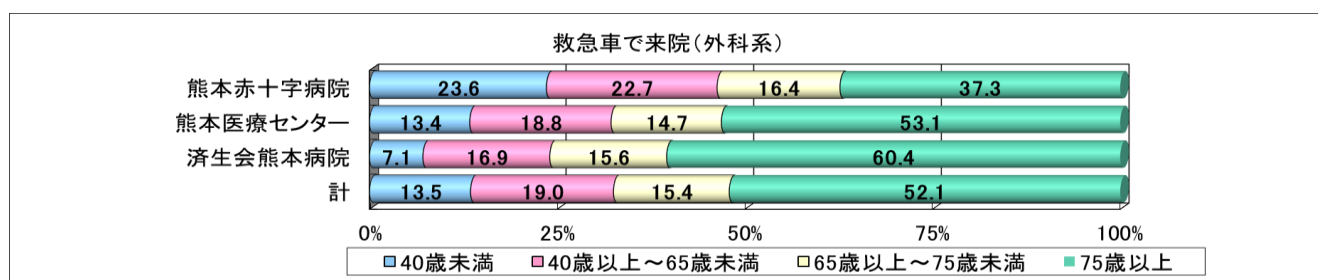
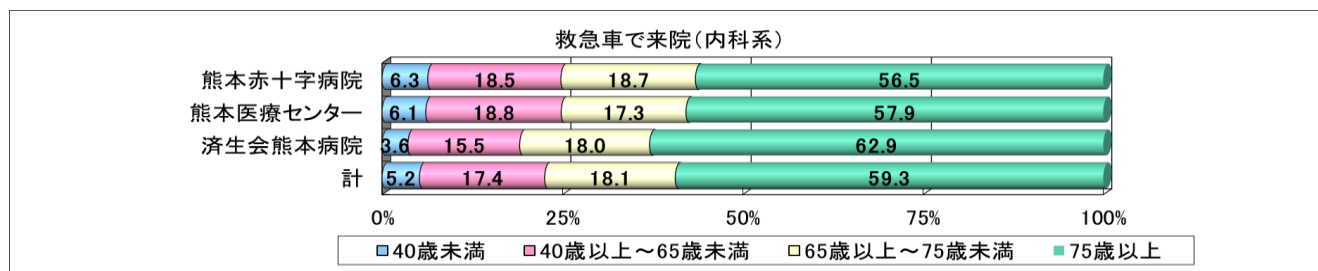
※ 4 救急告示の認定状況により、年によって該当医療機関数は変動します。

⑧ 令和6年度救命救急センターにおける救急患者の状況

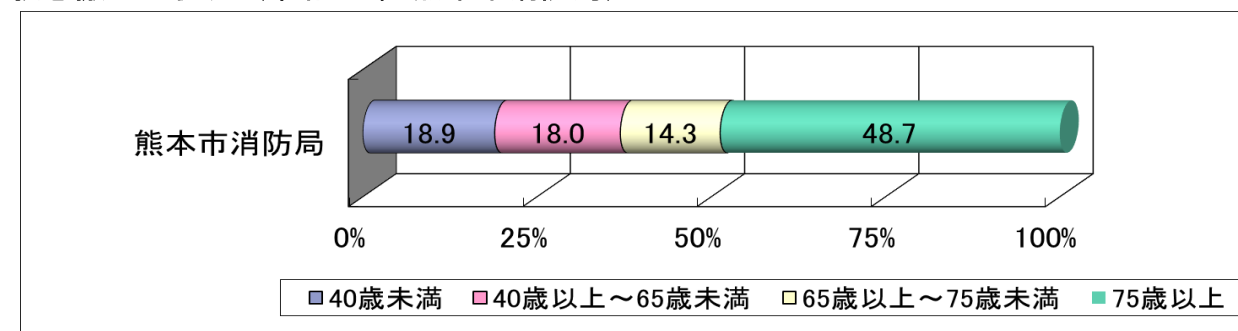
患者自到来院



救急車で来院



救急搬送の状況(令和6年 熊本市消防局)



※参考(令和7年7月 熊本市住民基本台帳人口より)

40歳未満 39.3% 40歳以上～65歳未満 33.1% 65歳以上～75歳未満 12.3% 75歳以上 15.3%

⑨ 「熊本型」ヘリ救急搬送体制によるヘリ運航状況について

1 運航集計期間

令和6年4月1日～令和7年3月31日

計365日間

2 運航（出動）件数及び内訳

【2機による運航状況】

ヘリ区分	件数 出動件数	出動件数内訳		
		現場救急	病院間搬送	出動後 キャンセル
ドクターヘリ	569	414	99	56
県防災消防ヘリ「ひばり」	101	40	61	0
計	670	454	160	56
（うち2機同時出動）	5	—	—	—

※その他、救助事案等として防災消防ヘリが62件出動

【消防別出動件数】

消防本部名	件数 出動件数	出動件数内訳		
		現場救急	病院間搬送	出動後 キャンセル
熊本市	24	16	6	2
宇城	29	25	4	0
有明	73	44	24	5
菊池	36	32	4	0
山鹿植木	82	62	15	5
阿蘇	166	119	27	20
上益城	70	61	6	3
八代	24	11	6	7
水俣芦北	21	7	14	0
上球磨	7	1	5	1
人吉下球磨	13	5	7	1
天草	125	71	42	12
その他	0	0	0	0
計	670	454	160	56

熊本県より資料提供

⑩ 「熊本型」ヘリ救急搬送体制におけるヘリ未出動件数について

年度	要請件数 (①)	未出動件数				出動前 キャンセル	未出動率 (②/①)
		時間外要請	天候不良	重複要請	合計 (②)		
R2	701	9	18	7	34	17	4.9%
R3	757	7	13	16	36	22	4.8%
R4	786	10	17	13	40	29	5.1%
R5	773	12	17	22	51	28	6.6%
R6	732	11	18	10	39	23	5.3%

≪補 足≫

- 時間外要請＝運航時間（原則8：30～17：15）外における要請
- 重複要請＝①ドクターヘリ出動時（防災消防ヘリ運休中）に入った要請
②防災消防ヘリ出動時（ドクターヘリ運休中）に入った要請
③ドクターヘリ及び防災消防ヘリとも出動中に入った要請

※未出動件数及び未出動率には、ドクターヘリ又は防災消防ヘリの一方が出動したため、もう一方が出動不要となった案件及び出動前にキャンセルとなった案件は含まれておりません。

熊本県より資料提供

(2) ① 令和7年度救急医療体制

		通常診療・初期(一次)救急		二次救急			救急調剤	
平日	昼間	各医療機関の診療時間	病院 90 一般診療所 654 歯科診療所 393 (R7.4.1 現在)					
	夜間	午後 6 時 ～ 翌午前 8 時	休日夜間急患センター(熊本地域医療センター) 小児科 午後 6 時～翌午前 8 時 内科・外科 午後 6 時～午後 11 時	午後 6 時 ～ 翌午前 8 時			午後 6 時～ 翌午前 0 時	熊本市薬剤師会 くまもと中央薬局
休日・祝日	昼間	午前 8 時 ～ 午後 6 時	休日夜間急患センター(熊本地域医療センター) 小児科・内科・外科	午前 8 時 ～ 午後 6 時	【熊本中央圏域】 (熊本市、宇土市、宇城市、益城町、嘉島町、御船町、甲佐町、美里町、西原村) 【熊本市】 救急告示医療機関 病院 41 診療所 2 (R7.4.1 現在) 病院群輪番制度 熊本地域医療センター 熊本赤十字病院 済生会熊本病院 熊本医療センター 熊本市民病院 植木病院 (植木地区)		午前 0 時～ 翌午前 0 時	熊本市薬剤師会 くまもと中央薬局
			休日当番医 内科・外科 7、小児科 1、整形外科 1、眼科 1、産婦人科 1、耳鼻咽喉科 1 (内科・外科 7 のうち泌尿器科 1 を含む) 植木地区 1～2					
	夜間	午後 6 時 ～ 翌午前 8 時	休日夜間急患センター(熊本地域医療センター) 小児科 午後 6 時～翌午前 8 時 内科・外科 午後 6 時～午後 11 時	午後 6 時 ～ 翌午前 8 時				
		午後 6 時 ～ 翌午前 0 時	休日準夜急患診療所(熊本赤十字病院) 小児科・内科・外科・整形外科 休日夜間歯科当番医 歯科 1					
毎日	24 時間		救急安心センター (#7119)					
	夜間	午後 7 時 ～翌午前 8 時	熊本県子ども医療電話相談* (#8000) *土曜：午後 3 時～翌日午前 8 時 日祝：午前 8 時～翌日午前 8 時					

	初期(一次)救急	二次救急	救急調剤														
年 末 年 始 (※)	休日当番医（12月30日午前8時～1月4日午前8時） ○熊本市医師会 （9時～17時）内科系5、外科系3、産婦人科1、小児科3、泌尿器科1 （時間未定）耳鼻咽喉科1、眼科1 ○鹿本医師会 例年どおり実施予定 （9時～17時）植木地区1～2	病院群輪番制度 【熊本中央圏域】 （熊本市、宇土市、宇城市、益城町、嘉島町、御船町、甲佐町、美里町、西原村） <table><tr><th>当番日</th><th>当番病院</th></tr><tr><td>12/30 午前0時～ 12/30 午前8時</td><td>国立病院機構 熊本医療センター</td></tr><tr><td>12/30 午前8時～ 12/31 午前8時</td><td>熊本赤十字病院</td></tr><tr><td>12/31 午前8時～ 1/1 午前8時</td><td>熊本地域医療センター</td></tr><tr><td>1/1 午前8時～ 1/2 午前8時</td><td>熊本赤十字病院</td></tr><tr><td>1/2 午前8時～ 1/3 午前8時</td><td>熊本地域医療センター</td></tr><tr><td>1/3 午前8時～ 1/4 午前8時</td><td>熊本赤十字病院</td></tr></table>	当番日	当番病院	12/30 午前0時～ 12/30 午前8時	国立病院機構 熊本医療センター	12/30 午前8時～ 12/31 午前8時	熊本赤十字病院	12/31 午前8時～ 1/1 午前8時	熊本地域医療センター	1/1 午前8時～ 1/2 午前8時	熊本赤十字病院	1/2 午前8時～ 1/3 午前8時	熊本地域医療センター	1/3 午前8時～ 1/4 午前8時	熊本赤十字病院	(24時間) 熊本市薬剤師会 くまもと中央薬局
	当番日		当番病院														
	12/30 午前0時～ 12/30 午前8時		国立病院機構 熊本医療センター														
	12/30 午前8時～ 12/31 午前8時		熊本赤十字病院														
12/31 午前8時～ 1/1 午前8時	熊本地域医療センター																
1/1 午前8時～ 1/2 午前8時	熊本赤十字病院																
1/2 午前8時～ 1/3 午前8時	熊本地域医療センター																
1/3 午前8時～ 1/4 午前8時	熊本赤十字病院																
休日夜間急患センター （12月30日 午前0時～1月4日 午前8時） ○熊本地域医療センター （24時間）小児科・内科・外科 （24時間）電話相談																	
休日歯科当番医 ○医師会 例年どおり実施予定 （24時間）2施設																	
○救急安心センター＜＃7119＞（24時間） ○熊本県子ども医療電話相談＜＃8000＞（24時間）																	

※年末年始：12月30日午前0時～1月4日午前8時

② 夜間の医療体制および相談体制の状況

1 現在の休日夜間急患センターの診療体制

診療科目	平日・土曜日		日曜・祝日		
	準夜(18-23)※1	深夜(23-8)※2	昼間(8-18)	準夜(18-23)※1	深夜(23-8)※2
内科	○	—	○	○	—
外科	○	—	○	○	—
小児科	○	○	○	○	○

※1 小児科は(18-24) ※2 小児科は(24-8)

2 現在の夜間対応の状況について

(1) 夜間コールセンターへの相談状況

市民の夜間の体調不良に対する不安を解消するために「熊本県夜間安心医療電話相談(#7400)」を令和3年6月から設置。令和6年4月から「救急安心センター(#7119)」に移行した。24時間365日、市民からの急病等の相談に常駐の看護師が対応を行い、受診の要否や応急処置の仕方、夜間に診療可能な病院を案内。

※#7119は、令和7年度から消防局救急課が担当。

<令和6年度 #7119の実績>

	計	月平均	1日平均
全応答数	8,058	671.5	22.0
うち熊本市	5,310	442.5	14.5
うち市外	2,748	229.0	7.5
熊本市の割合	65.9%	65.9%	65.9%

※一度の電話で複数件相談されることがあるため、

相談件数は実績と相談後の経過件数が一致しない。

<相談後の経過>

相談結果	件数	割合
救急車	1,040	12.9%
すぐに受診案内	2,208	27.4%
平日受診案内	811	10.1%
何かあれば受診	905	11.2%
医療機関案内	1,192	14.8%
助言・相談等	1,911	23.7%
計	8,067	100.0%

(2) 熊本県子ども医療電話相談(#8000)への相談状況 (熊本県より情報提供)

子どもの急な病気や外傷に対する保護者等の不安解消を図るために、休日・夜間における小児救急に関する相談を受付。経験のある看護師がお子さんの急な病気への対処方法や、応急処置について、休日や夜間に対応できる医療機関を案内。

<令和6年度 #8000の実績>

	計	月平均	1日平均
全応答数	23,850	1,988	65
うち熊本市	13,084	1,090	36
うち市外	10,766	897	29
熊本市の割合	54.9%	54.9%	54.9%

※一度の電話で複数件相談されることがあるため、

相談件数は実績と相談後の経過件数が一致しない。

<相談後の経過>

相談結果	件数	割合
救急車	249	1.0%
すぐに受診案内	7,380	30.9%
平日受診案内	7,123	29.9%
何かあれば受診	8,034	33.7%
助言・指導・情報提供	279	1.2%
その他	785	3.3%
計	23,850	100.0%

3 現状における課題と今後の方針

<課題>

熊本市の救急医療体制は、一次(初期)、二次、三次救急の三層構造で構成されており初期救急は「熊本方式」と呼ばれる、開業医・常勤医師・大学病院医師の三位一体の協力体制により支えられている。しかし近年、出動協力医の高齢化に加え、医師の働き方改革の進展に伴い休日夜間急患センターや休日当番医への出動協力医の確保が一層困難になってきている。

初期救急のひっ迫は、二次・三次救急への負担増加にもつながり、本来対応すべき重症患者への迅速な医療提供が困難となるリスクも懸念されるため、今後も、市民への適正受診の啓発を継続するとともに、熊本市の救急医療体制の維持・確保に向けて、関係機関が連携し、協議・検討を重ねていく必要がある。

<今後の方針>

○救急医療体制の維持・確保の観点から、市民に対して「かかりつけ医」や「かかりつけ薬局」を持つことの意義、上手な医療のかかり方など、適正受診・適正服薬の重要性について継続的な啓発を行う。また、県や近隣市町村とも協議・連携し、効果的な啓発の取組について検討・実施する。

○休日夜間急患センターについては、#7119や急患センターへの問い合わせ状況などを踏まえ、市民の受診行動の傾向を把握しながら、現在の診療体制の維持に努める。

○特に小児科の診療体制については、将来的に現行の体制維持が困難になる可能性もあるため、体制の維持・確保に向けて関係機関と継続的に協議し、県や周辺市町村とも情報共有・連携を図る。

○#8000や#7119などの電話相談について、一層の周知を図ることで、市民の急病時の受診相談に対応し、医療機関への負担軽減につなげる。

<参考>「救急医療マモルンダーマン」救急啓発キャンペーン（令和6年度作成）

【主な啓発活動】



- ・市内街中大型ビジョンにて救急啓発動画
- ・熊本市電に広告掲載
- ・関係機関所管施設にて広告ポスター掲示 等



- ▶ 動画は現在、熊本市公式 YouTube チャンネルにて公開中。上 QR コードからご確認いただけます。

2 災害医療について

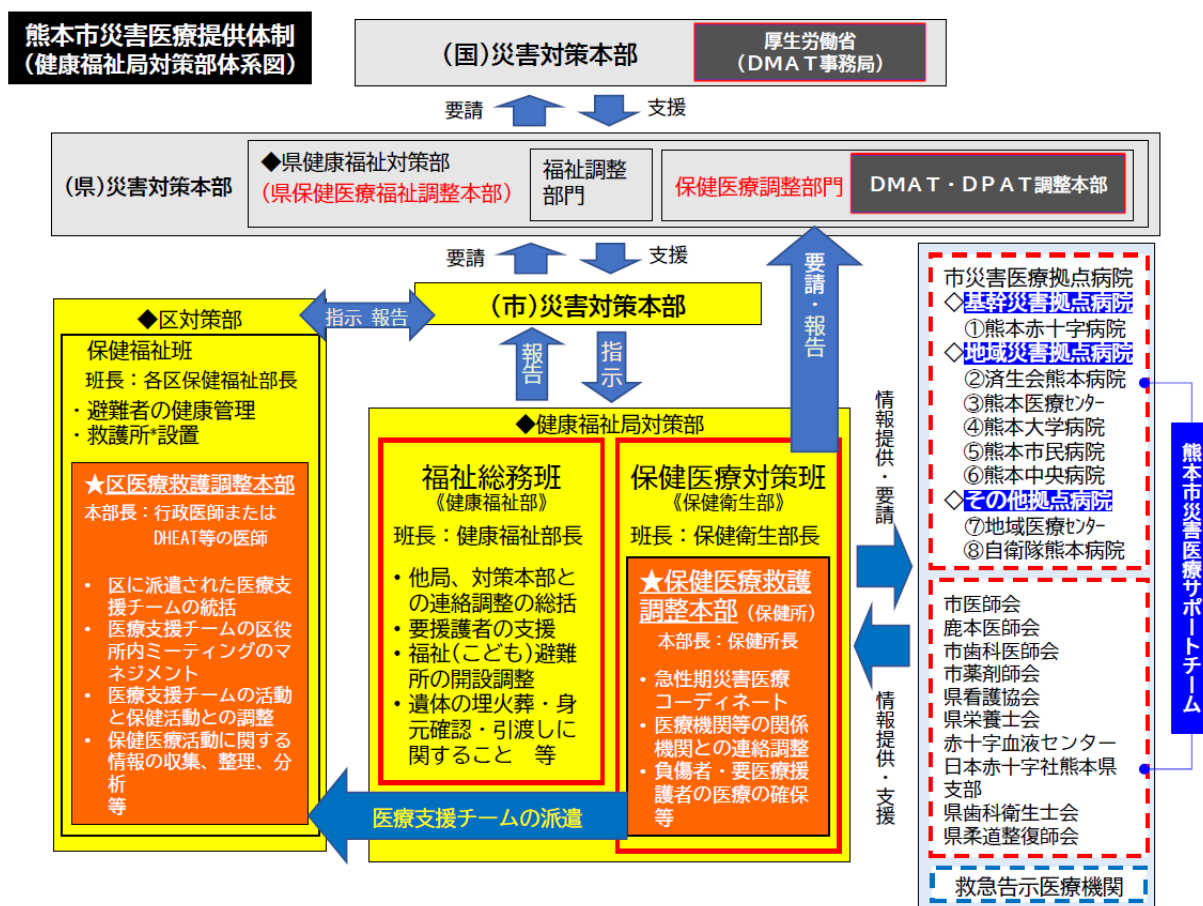
1. 熊本市の災害医療提供体制について

大規模災害の発生時には、医療施設の損壊や交通網・ライフラインの途絶、医療スタッフの不足等により医療提供能力が低下する中、多くの傷病者に、限られた医療資源で効率よく対応することが求められる。

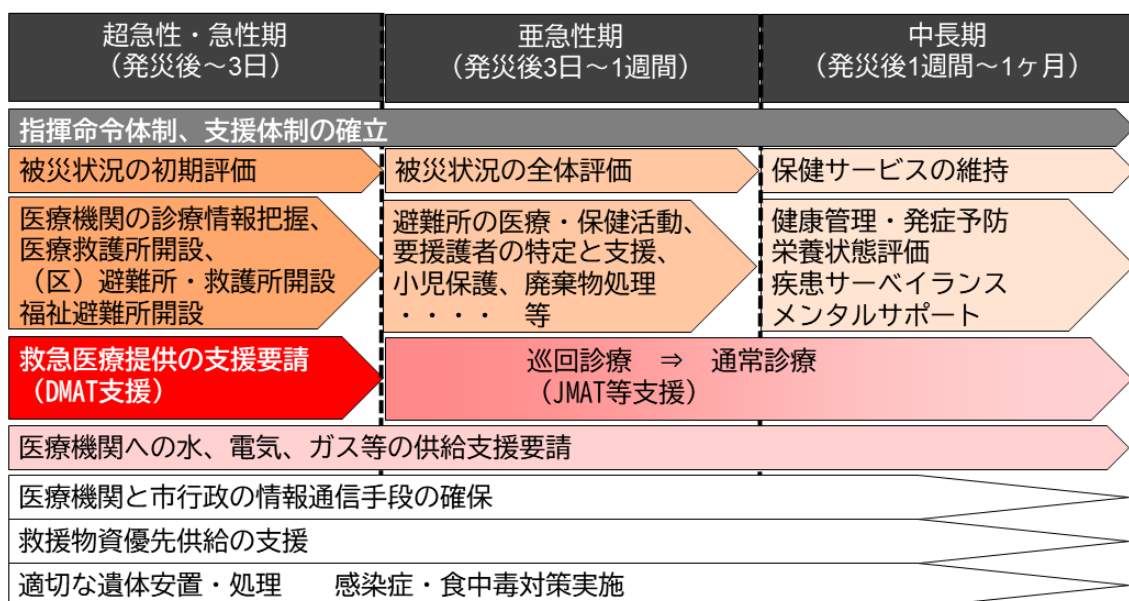
傷病者の受入は、免振・耐震設備を持つ災害拠点病院が中心となるが、被災現場や避難所、人的支援が必要な医療機関に対しては、県知事の要請により直ちに全国から医療支援チームがかけつける体制となっている。

発災直後、県庁には県災害対策本部が設置され、医療調整本部の他、消防、警察、自衛隊等の本部もおかれ、DMAT・DPAT等の全医療支援チームの派遣調整や重症患者の県外搬送調整、ドクターヘリの運行調整、自衛隊や警察との連絡調整等が行われる。

熊本市災害医療提供体制 体系図



<参考> 各フェーズの体制



(1)急性期フェーズ(概ね3日間)

熊本市域内の医療救護調整は、市保健所内に本部を設置後、医療機関の被災状況や患者の受入れ状況等について、広域災害救急医療情報システム(EMIS)等により情報収集を行い、医療ニーズと医療資源の供給調整(災害医療コーディネート)等を行う。

また、県がDMATの派遣要請や参集したチームの市町村別・地域別の割振りなどの全体調整(広域調整)を行うが、市保健医療対策班は、市の災害医療担当者及び熊本市地域災害医療コーディネーター(災害医療の専門医で本市では6人の医師を指定)を県庁に派遣し、市に割り振られたDMATの派遣活動調整等(急性期地域災害医療コーディネート)を行う。

さらに、医療資源を最大限に活用できるよう、救護活動では傷病者のトリアージを行い、重症患者の治療は災害拠点病院に集中させる。拠点病院以外の病院は、中等症患者の治療にあたり、軽症患者は病院ではなく、診療所や救護所で治療することとなる。

(2)中長期フェーズ

市保健所は、県を通じて派遣される医療支援チームを各区に派遣し、避難所や自宅で生活する市民の健康支援活動等を開始。市保健所と区に、医療救護調整本部を設置し、各避難所のアセスメントや健康管理、各支援チームの調整等を実施する。

JMAT等の医療支援チームは、区の保健師等と連携して被災市民や各避難所等のアセスメントを行い、避難者の健康管理・健康支援の他、避難所の感染症・食品・生活衛生対策等を実施する。

区と保健所の情報整理と業務調整のため、区と市保健所の連携会議や区・市保健医療調整本部長会議を適宜開催するとともに、医師会や拠点病院等の外部団体とも情報を共有し連携するため、市地域災害医療対策会議を開催する。

2. 熊本市地域災害医療コーディネーターについて(平成 30 年 3 月設置)

急性期の概ね3日間においては、県庁に熊本市地域災害医療コーディネーターと市の災害医療担当者が出動し、県災害医療コーディネーター等と連携しながら傷病者の受入医療機関の調整を行う。

中長期においては、各区の調整本部と連携して保健医療活動に係る情報収集・分析等を行い、県を通じて派遣された保健・医療活動チームに対し適切な派遣調整・指揮命令等を行う。

➤ 令和7年度「熊本市地域災害医療コーディネーター名簿

所属医療機関		氏名
1	熊本大学病院	田中 拓道 医師
2	熊本医療センター	渋谷 崇行 医師
3	熊本赤十字病院	平井 克樹 医師
4	済生会熊本病院	川野 雄一郎 医師
5	熊本市医師会	米満 弘一郎 医師
6	熊本市民病院	赤坂 威史 医師

3. 熊本市災害医療サポートチームについて

熊本市では、災害発生時の緊急連絡用としてサポートチーム構成員間で連絡先を共有するために、「熊本市地域災害医療コーディネーター・サポートチームメンバー表」を作成し、毎年度更新を行っている。また、情報連携を効率よく行うために、SNS(LINE)による情報網を整備している。

➤ サポートチーム構成員

熊本市救急災害医療協議会の「保健医療専門団体」、「公的医療機関」及び「日本赤十字社熊本県支部」並びに関係機関からの推薦によって選出。

原則、「保健医療専門団体」は各1名、「公的医療機関」は医師と事務担当者の各2名。

熊本市災害医療サポートチーム構成機関（18 機関）		
熊本市医師会	熊本医師会	熊本市歯科医師会
熊本市薬剤師会	熊本県看護協会	熊本県栄養士会
熊本大学病院	済生会熊本病院	熊本赤十字病院
国立病院機構熊本医療センター	熊本中央病院	自衛隊熊本病院
熊本地域医療センター	熊本市民病院	熊本県赤十字血液センター
日本赤十字社熊本県支部	熊本県歯科衛生士会	熊本県柔道整復師会

➤ 主な役割・活動 [P15 熊本市災害医療提供体制 保健医療対策班体系図を参照]

- ① 熊本市保健医療対策班(保健医療救護調整本部)が行う災害医療コーディネート活動を支援するための各機関の連絡調整を担う。
- ② 平時および災害発生時に地域災害医療対策会議に参加し、情報共有・意見発信を行う。

4. 広域災害救急医療情報システム(EMIS)について

(1)災害時のEMIS利用について

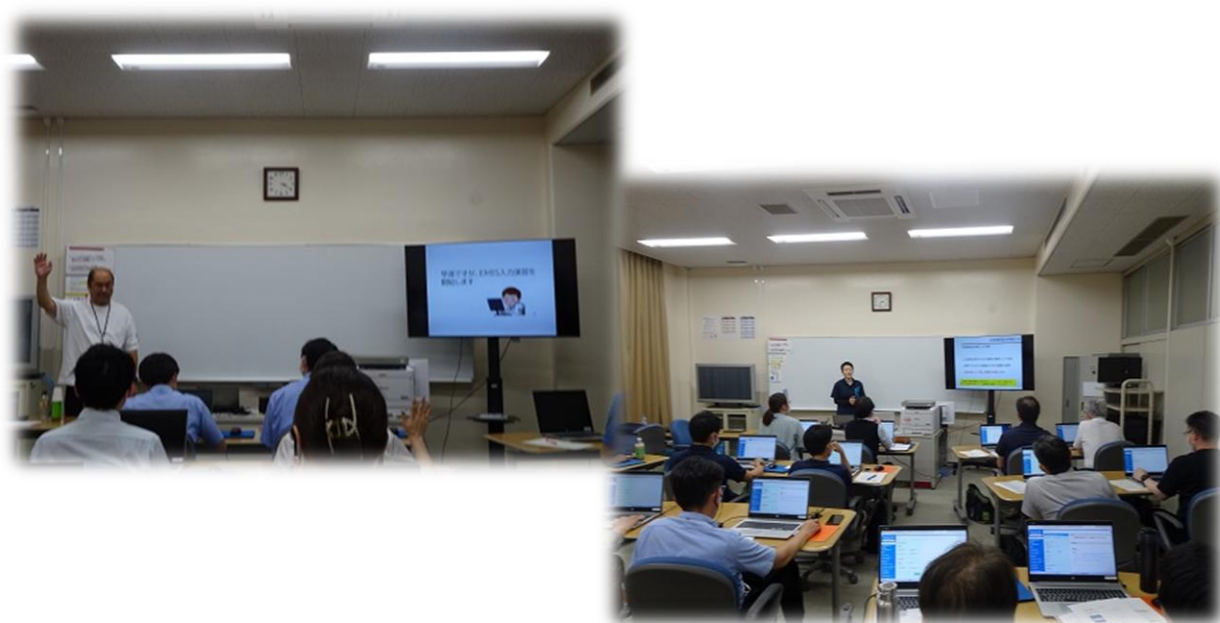
災害発生時には、厚生労働省が運営する「広域災害・救急医療情報システム(EMIS)」が稼働し、各病院は患者受入状況やライフラインの状況などを入力する。

旧 EMIS は 2025 年 3 月 28 日にサービスを終了し、翌日から「広域災害・救急医療情報システム代替サービス(新 EMIS)」が本格稼働した。新 EMIS ではログイン方法や操作画面が刷新され、情報共有の迅速化と精度向上が図られている。

県・市・DMAT 等は新 EMIS の情報をもとに病院の状況を把握し、医療調整や支援を連携して行う。

熊本市では 90 病院すべての登録が完了しており、有床診療所も順次登録を進めている。

	令和7年度	令和6年度
日時	令和 7 年 7 月 9 日(水)、10 日(木)、23 日(水)	令和 6 年 9 月 18 日(水)、9 月 19 日(木)
場所	会場(熊本市職業訓練センター)とオンライン(Microsoft Teams)によるハイブリッド開催	熊本市立総合ビジネス専門学校 (会場参加が難しい機関のみオンライン対応)
参加数	市内 72 医療機関等 98 名	市内 75 医療機関等 102 名
内容	熊本市保健所が災害時の医療提供体制について説明した後、災害拠点病院等の DMAT 隊員が、新 EMIS(広域災害・救急医療情報システム代替サービス)の概要や入力の意義について講義を行った。 その後、参加者は実際に端末を操作しながら、新 EMIS へのログイン、緊急時入力、詳細入力の演習を実施した。 さらに、医療機関等状況モニター機能や医療機関施設情報の入力についても、新 EMIS の画面を用いて確認を行った。	熊本市保健所から災害時の医療提供体制について説明後、災害拠点病院等の DMAT 隊員から EMIS の概要と入力意義について講義を行った。 その後、実際に端末を操作しながら EMIS へのログイン・緊急時入力・詳細入力の演習を実施。 さらに、医療機関等状況モニター機能や医療機関施設情報の入力についても実際に EMIS を操作しながら確認を行った。



令和7年7月 EMIS 研修会の様子

5. 熊本市災害医療訓練の実施について

大規模災害発生時における迅速な医療提供体制の確保及び関係機関との連携体制強化を図ること等を目的として、熊本市救急災害医療協議会との共催により、年に一回、熊本市災害医療協訓練を実施している。

熊本市災害医療訓練内容(例)	
災害拠点病院	多数の傷病者が殺到する状況に対するトリアージ・応急処置などの患者受け入れ訓練等
その他の病院	EMIS 入力などによる情報伝達訓練
市保健所	各機関や各区と連携した体制で迅速な対応ができるよう保健医療救護活動にかかる災害対応図上訓練等

令和6年度は、令和6年11月24日(日)に熊本市が実施した「令和6年度(2024年度)熊本市震災対処訓練」に合わせて、熊本市災害医療サポートチーム、熊本市災害医療拠点病院、熊本市医師会、熊本県など12機関と情報連携訓練を行った。

【令和7年度 熊本市災害医療訓練の実施について】

令和7年(2025年)11月9日(日)に予定されている、熊本市震災対処訓練に合わせて、市内病院(任意)・関係機関を対象に実施予定。

訓練項目	当日の連絡先・対応者	訓練内容
①職員参集及び体制構築 (保健医療対策班設置)	健康危機管理課とりまとめ	・保健医療対策班立ち上げ ・アクションカードに沿って各係の担当業務を行う
②保健医療救護調整本部 設置訓練	災害医療サポートチーム	・地域災害医療コーディネーターへ 出動依頼 ・県防災センターへ、地域医療コーディネーター及び副課長、ロジを派遣等
③情報収集訓練	・地域医師会 ・薬剤師会 ・EMIS 登録医療機関	・EMIS による医療機関状況調査 ・未入力医療機関への状況調査 ・地域医師会や薬剤師会等との連携 ・診療所の診療状況共有
④情報発信訓練	災害医療サポートチーム	・災害医療対策会議の開催通知
⑤事例対応訓練 (1)	熊本県、災害拠点病院等	・在宅避難中の人工呼吸器使用者への 支援
事例対応訓練 (2)	熊本県、災害拠点病院等	・被災透析医療機関への支援
⑥市民啓発・広報訓練	・地域医師会 ・区役所等	・軽症患者への不要不急の受診を控える ように啓発 ・診療可能な医療機関の情報発信

※訓練内容については、今後変更になる場合もある。

6. 災害医療にかかる市民への啓発について

災害時の限られた医療資源の中で、治療が必要な方に必要な医療を提供できるよう、市民への啓発も必要です。「大規模災害時には多くの方の命を救うためトリアージが行われること」や「トリアージの内容について」など、熊本市のホームページや市政だより等を活用した市民への啓発を関係部署とも連携しながら検討していきます。

ホーム > 分類から探す > 健康・医療・福祉 > 医療 > 災害時の医療について

もっと見る (全4件)

災害時の医療について

最終更新日：2025年6月18日 印刷

(ID:45259)

災害発生時は、医療の需要が供給をはるかに上回る状況で、少しでも多くの命を救う必要があります。熊本市では、災害発生時の医療提供体制の整備に取り組んでいます。



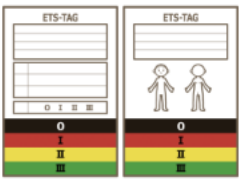
- 緊急のお知らせ ↓
- 災害医療とは・・・ ↓
- 熊本市の災害医療提供体制 ↓
- 少しでも多くの命を救うために ↓
- 医療機関の皆さまへ ↓
- お問い合わせ先 ↓

少しでも多くの命を救うために

🍃「トリアージ」って？

大規模な災害や事故などで大量の負傷者が出た場合、多くの命を救えるようにするために「トリアージ」が行われることがあります。災害時など一度に多くのケガ人や病人が発生した際に、傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送を行うために、傷病者の治療優先順位を決定することです。すべての人を救えることが最善ですが、限られた医療スタッフおよび医療機器数では、より多くの人を救うために優先順位を決めざるを得ないのが実情です。

トリアージは災害発生現場か病院で行われます。通常、実施する人は「医師」「看護師」「救急救命士」です。傷病者を「軽症」「中等症」「重症」「死亡」の4つのカテゴリー統一された方法を用いて分類します。トリアージを受けた傷病者は、トリアージタグ（緑、黄、赤、黒）というトリアージの結果が書かれた札を付けられます。このトリアージタグにより、現場では誰が見ても優先順位を容易に確認でき、治療をはじめとする次の行動を明確にすることができます。



災害時トリアージではSTART法を用います。Simple Triage and Rapid Treatmentの略で「単純なトリアージと迅速な治療」を意味します。災害などで多くの傷病者がいる場面で、とにかく素早く行えるのが特徴です。重要なポイントは以下の4つです。

ほことて法（START法）

状態	評価内容
ほ 歩行できるか	歩行ができていれば緑タグ
こ 呼吸しているか	気道開通の有無
と 橈骨（とうこつ）動脈は、触れるか	循環のサイン
て 手を握れるか（従命反応）	中枢神経障害の評価

ほことて法を用いれば、医療従事者でなくても、おおまかなトリアージが可能です。

